

# 重要カレイ類の資源評価と管理技術に関する研究

(資源評価調査)

曾田一志・佐々木正・村山達朗

## 1. 研究目的

本県の底びき網漁業の重要資源であるムシガレイ、ソウハチ、アカガレイの資源状況を漁獲統計調査、市場調査、試験船調査により把握し、科学的評価を行なうとともに、資源の適切な保全と合理的かつ永続的利用を図るための提言を行う。

## 2. 研究方法

上記3種について、漁獲統計資料の収集、市場における漁獲物の体長組成調査、生物精密測定および試験船による分布調査を実施した。さらに、これらの調査結果をもとに独立行政法人水産総合研究センターおよび関係各県の水産研究機関と協力して、魚種別の資源評価を行い生物学的許容漁獲量（ABC）の推定を行った。

## 3. 研究結果

3魚種について漁獲統計資料の整備を行うとともに、島根丸による試験操業時に漁獲された漁獲物の体長測定を行った。また、浜田港、恵曇港において漁獲物の体長組成調査を実施し、一部標本について体長、体重、生殖腺重量、胃内容物等の測定を行った。さらに、独立行政法人日本海区・西海区水産研究所が中心となる資源評価会議に参加し、資源量、漁獲水準、漁獲強度の推定と、管理方策の提言を行った。

ムシガレイについて過去の市場調査等の結果を元に全長組成の頻度分布の経年変化を求めた(図2)。漁獲量が増加に転じる直前のH16漁期(図1)では小型魚の減少が著しかったが、H17年漁期以降は増加し、同様の傾向が続き、これと同時に漁獲量も再び増加し、安定した。このことから平成17年漁期以降、小型魚の漁獲対象資源への加入は比較的安定していると推定された。

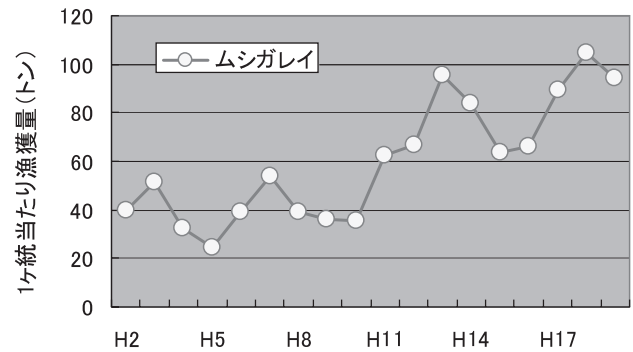


図1 ムシガレイ漁獲量の経年変化

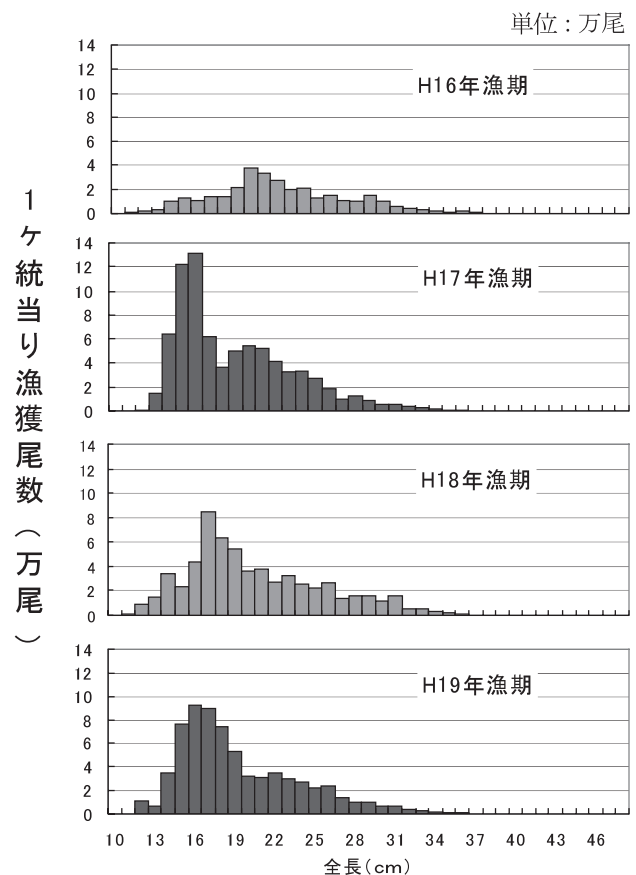


図2 ムシガレイ全長組成 (1ヶ統当たり)